

「事業名：飯舘村における農業再生と風評被害払拭のための教育研究プログラム」 2020年度事業の実績・成果

東京大学 連携市町村：飯舘村

連携市町村との協定締結日：平成30年3月5日 現地拠点：福島県相馬郡飯舘村佐須滑87

事業のポイント

事業提案者は、原発事故の3か月後から飯舘村に赴き、NPO法人や農家と協働で独自の農地除染法を開発し、作物の試験栽培を実施してきている。活動の中で、放射能汚染地というハンデを背負った飯舘村の復興には、単なる技術的な除染やインフラの物理的再建だけで終わらず、その先に新しい日本型(小規模世代間交流型)農業の創設にチャレンジする若者の育成が必要であることを痛感した。本事業では、学生を対象とした飯舘村の現地見学会や教育研究活動を展開し、風評被害を払拭する取り組みを進めると同時に、震災直後から蓄積されてきた知識(大学が有する復興知)を現場の課題解決と研究活動に展開するFPBL(Field & Project Based Learning)を実践的に試みる。

今年度の活動実績

(1)農村復興のための人材育成を目指した教育プログラム(飯舘村における現地体験と意識変化の評価)
全国各地の大学生を飯舘村に招聘し、現地における多様なステークホルダー(農家、通いの住民、移住者、道の駅、村役場など)との交流や村内見学、ワークショップを含めるフィールドワークプログラムを実施した。特に今年度は現地カウンターパートとのウェブを介した交流やディスカッションの機会なども重点的に取り組み、またワークショップを行う期間のスポット的な接点を、ウェブ上の諸システムを活かして、面的なものとし、遠隔地に居ながらも飯舘村の復興に学生等が関わる事が可能な「大学-村間(お手伝い)プラットフォーム」の確立と「飯舘村復興メディア」との連携体制を確立した。

(2)農業再生のための大学知を活かした研究プログラム(飯舘村と研究室を繋ぐ多面的研究)
村内における田畑や水田の放射性セシウム分布状況を調査し、また斜面から水路への放射性セシウムの流入について調査した。加えて、除染後の農地利用において課題となっている、除染時の重機による踏み固めに起因する農地の排水不良の克服について、地下水位や土壌水分量などをIoTセンサーとリモートモニタリングシステムを利用し、作物への影響や深耕や暗渠の設置などの対応策を検討した。

今年度の成果

- ・全国各地の学生を飯舘村に招き、またウェブを介して飯舘村ひいては福島の復興について学ぶプラットフォーム(PF)を整備した。また、現場の課題に根付いた研究活動と地域振興を考えさせ、その活動の成果物として作成された飯舘村のプロモーションに資する画像や動画などにもアクセスできるようにPFを整備した。
- ・斜面等からの放射性セシウムの流入の寄与や降下物の農作物汚染の影響を検討し、また除染後の農地において課題となっている排水不良について、当該農地へのIoT農業システムの導入を行い対応策を検討した。



意見交換フォーラムや動画アーカイブなどを
含めた総合プラットフォーム(website)



飯舘村内でのツアーと屋外ワークショップ



踏み固められた農地の土壌硬度調査風景
とリモートモニタリングシステム